

## 全体的な傾向

松本市の中学生の状況を比較すると、全国とポイントが大きく異なっている項目は次のようなものがありました。(カッコの数值は、全国との比較)

□「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

<当てはまる> 30% (+11) <どちらかといえば、当てはまる> 32% (+5)

→ 地域の行事に進んで参加している傾向が見られます。

・「放課後(週末)に何をしてお過ごしことが多いですか」(複数回答可)

〈放課後〉

・家で読書や勉強をしている。57% (+15) ・友達と遊んでいる。37% (-7)

〈週末〉

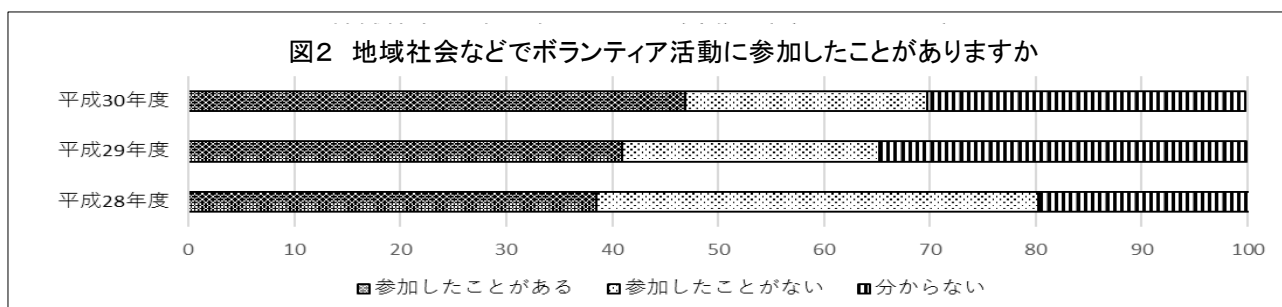
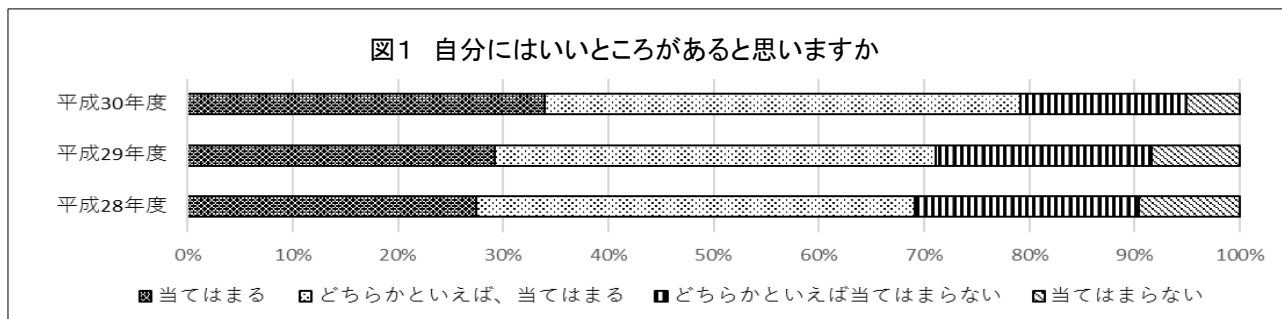
・家で読書や勉強をしている。56% (+15) ・友達と遊んでいる。43% (-13)

→ 放課後や週末は、友達と遊ぶより家で勉強や読書をしている傾向が見られます。

## 今年度の主な特徴

### 1 自己肯定感の高まりと地域社会とのつながり

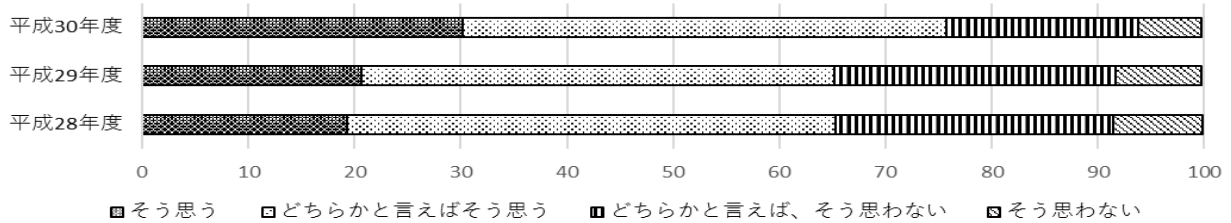
「自分には、よいところがあると思いますか」に約8割の生徒が肯定的に答えています(図1)。これは、松本市が「子どもの権利条約」を制定し、人権意識を高めるために取り組んだことが成果を出しはじめたとも考えられます。また、地域行事への参加が全国比で高い傾向が続いていることや、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがあるか」(図2)に、「参加したことがある」と回答した生徒の伸びと連動していることから、地域社会とのつながりやボランティア活動への参加が自己肯定感の高まりに関係していることがうかがえます。



### 2 主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善

「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に、「そう思う」と回答した生徒の割合が増えており、前年比で10ポイント高くなりました(図3)。話し合いやグループワークが積極的に取り入れられ、生徒が授業形態の変化や成果を自覚した表れだと考えられます。各校で、主体的・対話的で深い学びを成立させるための授業改善が進みはじめたことがうかがえます。

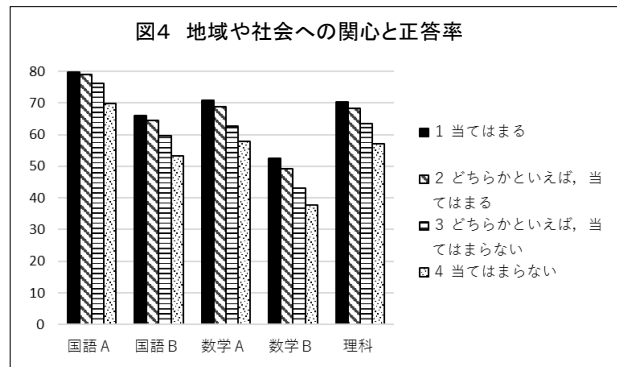
図3 生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



## 学力状況と生活・学習実態との相関関係

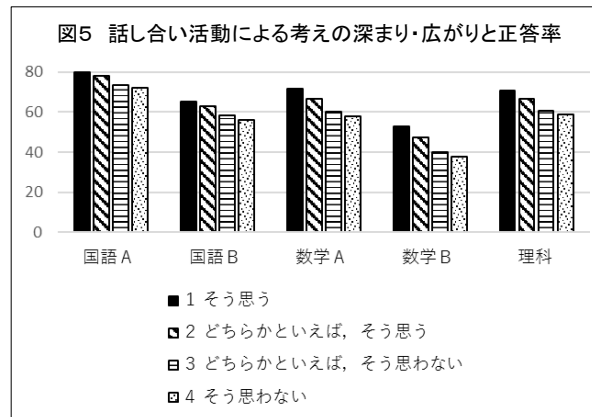
### 1 地域への関心と正答率

右の図4は、「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか」の回答と各教科の正答率との相関図です。前述のように松本市は、地域への行事参加率が全国と比較して高い結果がでていますが、上記質問についても肯定的な回答の生徒は全国に比べて4ポイント高くなっています。図4からは地域への関心が高いほど各教科の正答率が高くなっていることが分かります。これは、松本版コミュニティスクールによる地域と連携した学校体制や、松本市が力を入れている総合的な学習の時間の取組により、地域へ出かけ、「ひと・もの・こと」から「問い」をもち、課題を解決していく学び方が各教科での活用へとつながっている結果であると考えます。



### 2 課題の解決や話し合い活動と正答率

右の図5は、「生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対する各教科の正答率です。この質問に対して、肯定的な回答をしている生徒の正答率は、各教科ともに平均3ポイント高い結果となっています。しかし、肯定的な回答をしている生徒は全国比でほぼ同程度にとどまっており、自分の考えを深めたり、広げたりする話し合い活動が授業改善の視点であることが分かります。今後学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」に向けて、総合的な学習の時間や、新しく教科となる道徳を軸としながら話し合い活動の充実を求め、各教科へとそれを活用していく必要があると考えます。



## まとめ

「子どもの権利条約」の制定や、松本版コミュニティスクール、総合的な学習の時間の充実など、松本市が力を入れて取り組んできたことに一定の成果が認められました。また、学校での授業改善の取組が進んでいる一方、上記のように話し合い活動では課題が見えてきました。また、朝食を毎日食べている生徒の割合（毎日食べていると回答：81%）が過去最低になるなど、家庭での課題も見られました。学校・家庭・地域がそれぞれの課題解決に努めると同時に、連携して教育力を高めていくことが一層求められています。